

氏名	周宇
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健学
学位授与番号	博甲第6524号
学位授与の日付	令和3年9月24日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	Relation Between Identity Disclosure to Family Members and Mental Health in Japanese Transgender People (日本人トランスジェンダーにおける家族へのカミングアウトと精神状態との関連)
論文審査委員	教授 森本美智子 教授 谷垣静子 教授 齋藤信也

### 学位論文内容の要旨

トランスジェンダー当事者においては、周囲の人々へカミングアウトすることは重要な意味を持つ過程であり、特に家族へのカミングアウトの結果によって精神状態に大きな影響を及ぼす可能性がある。今回、日本人トランスジェンダーにおける家族へのカミングアウトの状況とK6尺度による精神状態との関連を検討した。対象は岡山大学ジェンダークリニックを受診したトランスジェンダー当事者のうち、同意をえられた71人、無記名自己記入式質問紙調査を実施した。家族へのカミングアウト状況としては、母親に89.1%、父親に68.7%、兄弟に59.1%、姉妹に77.8%、祖父母に47.6%であった。父親では肯定的な反応は27.7%と最も低率であった。多くの両親は、当事者のホルモン療法や手術、望む性別での生活に同意していた。K6で評価し、抑うつや気分障害の見られた当事者の割合は、家族から否定的またはどちらとも言えない曖昧な反応を経験した人の方が有意に高かった。教育者や医療スタッフ、心理士は、トランスジェンダー当事者の家族へのカミングアウトをサポートする必要があると考えられる。

## 論文審査結果の要旨

トランスジェンダー当事者に対するカミングアウト時の家族の反応は、当事者の精神状態に影響を与える可能性がある。本論文は、トランスジェンダー当事者71名を対象に、カミングアウトした家族、その時の家族の反応、カミングアウトによる当事者の心理状態等について検討し、以下のような成果を得ている。

- 1) カミングアウトした家族としては、母親が89.1%、父親が68.7%であった。家族の反応として、父親の肯定的反応が家族の中で最も低く26.7%であった。
- 2) 心理状態の評価では、カミングアウト前よりも後が、カミングアウト後よりも現在の平均得点が高かった。K6 scoreでは、中等度の気分・不安障害の者が16.9%、重度な気分・不安障害の者が23.9%であることが示された。

サンプルサイズが限られている、心理状態の評価に対してはリコールバイアスがあるなど課題を有しているものの、カミングアウト時の家族の反応といった側面からトランスジェンダーの精神面の改善を模索する研究論文であり、臨床的な意義がある。よって、本論文を博士の学位に値する論文であると判断する。審査員は、論文内容・試問を行った結果から、合格とすることを適当と認める。